

**(8) 学校実習・ボランティア支援室****① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

学校実習・ボランティア支援室は、教育実習、学校実習及び学生の各種ボランティア活動を円滑に実施するための支援・危機管理等を行うことを目的として設置されている。

**イ 組織の構成及び構成員等**

学校実習・ボランティア支援室は、室長、特任教員、兼務教員、学長が指名した附属幼稚園副園長、教育実習委員会委員長、学校実習委員会委員長、その他必要な職員で組織し、計 20 人で構成されている。

**② 運営・活動の状況****ア 委員会等の開催状況**

令和 3 年度においては、以下のとおり 3 回開催した。

- ・ 第 1 回 令和 3 年 4 月 6 日（火）
- ・ 第 2 回（書面審議） 令和 3 年 11 月 8 日（月）～令和 3 年 11 月 11 日（木）
- ・ 第 3 回 令和 4 年 3 月 14 日（月）

**イ 審議された主な事項**

令和 3 年度の主な審議事項は、「ボランティア体験」、「学校ボランティア A (学校支援体験)」、「学校ボランティア B (学校支援体験)」及び「総合インターンシップ」に係る令和 3 年度実施計画並びにそれら授業の履修状況等についてである。

**ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等**

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響をうけることなく、授業やボランティアを実施することができた。特に受入機関からのボランティアの依頼が増えたため、従来の対面での説明会や指導等に加えて、メールやオンライン（Google Classroom）を活用し、感染症対策の徹底に努めた。またボランティア関連の授業では、受入機関の担当者を大学に招いて講義や実技を行っていただき、学生のボランティアに対する意欲を高める一役を担うことになった。

**③ 優れた点及び今後の課題等**

「ボランティア体験」では、授業内でボランティア活動を行ったり、受入機関から職員の方を講師としてお招きし、活動を行ったりして、学生のボランティアへの意識を高めた。今後も学生の積極的な参加を促進するため、メールやオンライン（classroom）、ちらし等を活用し、ボランティア体験に対する広報活動を行っていく。

「学校ボランティア A」では、今年度初めての試みとして、受入校の担当者を大学に招き、学生に対してパネルディスカッションを行った。これにより中学校へのボランティアを積極的に行いたい、多種多様なボランティアに挑戦したいと考えた学生が増えた。担当者の先生方に大学の様子を実際に見ていただいたことで、より一層受入校からの協力（ボランティアの受入数の増加）をいただくことにつながった。また 1 月に行われた「履修発表会」では、感染症対策を考慮し、Zoom で行った。さらに Google が提供する Jamboard というツールを使って、対面で行うホワイトボードミーティングのように、参加者全員がグループに分かれ、同じ画面を共有しながらリアルタイムで書き込み、説明するという形式を行うなど、新しい授業スタイルを作り上げることができた。

「学校ボランティアB」では、特任の先生方が小学校を訪問するたびに、学校ボランティアBと教育ボランティアについて、ちらしを使って説明をしていただいた。その結果、学校ボランティアBを要請する小学校が増えた。学生も、実習校の先生方から「また学校にきてほしい」という声かけをしていただいたことで、学校ボランティアBの履修を希望する学生が急増した。授業では、小学校で通級指導を行っている先生を招き、講義をしていただいたり、Jamboardを併用してZoomで行ったり、工夫した。

「総合インターンシップ」を履修した学生は、全員学部3年生時に学校ボランティアBを履修しており、教員としての資質向上に向けて非常に意欲的で、熱心に取り組んだ。今後は、本講座に対して、学内の教員及び学生への理解をさらに進めていく必要がある。特に学生には、学部1年生から本講座の意義と重要性を広報し、履修生の数を増やしていく。